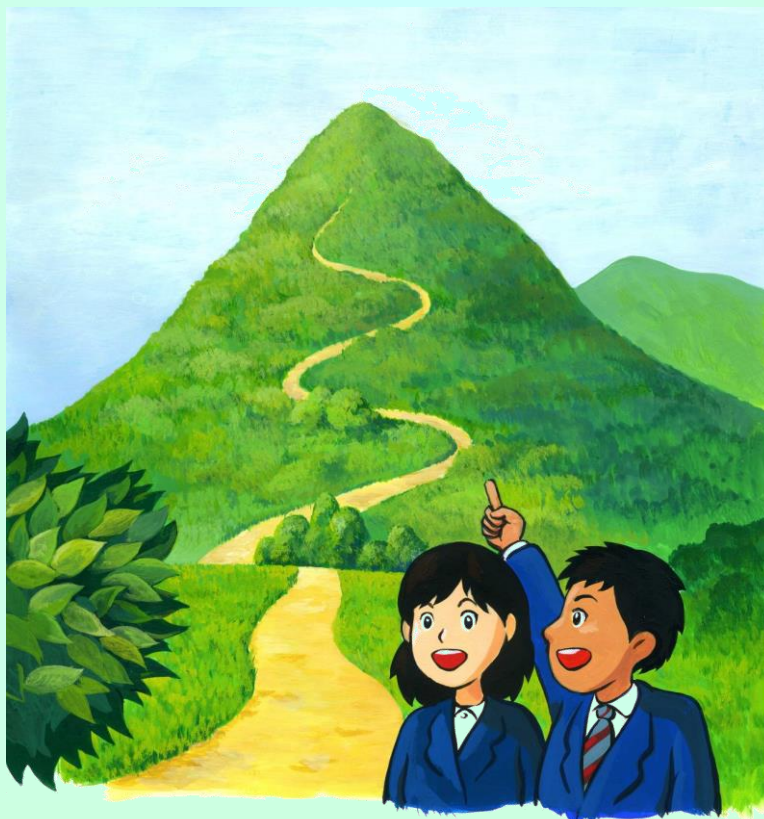


— 広島県におけるキャリア教育の充実に向けて（提言） —

# 輝く大人をめざして

夢のスケッチブックづくり



平成20年3月

キャリア教育支援会議

# 広島県におけるキャリア教育のめざす

## ”夢のスケッチブック”

保育所・幼稚園

ねえ、  
ひみつきちを  
つくろうよ！

じゃあ、ぼくがあ  
なをほるから、み  
んなは おやまを  
つくって…



ともだちどうし相談しながら、  
仲良く遊んでいます！

茎にそって  
掘ってごらん。  
おもが見つかる  
よ。

ほんとだ！  
おいもって こんな  
ふうに育つのか！

小学校

地域の高齢者の方と一緒にいもほり  
をしたよ！




【地域の方】

- 学校では体験できないことを、私たちが体験させてやることは、地域の大切な役割だと考えています。子どもは地域の宝ですから。

【受入事業所の方々】

- 5日間の職場体験は、作業の内容も理解でき人間関係もできてくるので、声も大きく、言葉づかいもよくなり、子どもたちの成長が実感できました。



## 学校間の 「つながり」を深める

### 具体的な取組み例

#### ● 「なりたい自分」をみつける体験的な活動を

学校同士が情報交換しながら、子どもが「なりたい自分」について考えることができるような体験的な活動を各学校で実施しましょう。

そして、成長した姿を学校同士で話し合しましょう。

#### ● 小・中・高の教員同士の研修を

各学校で行うキャリア教育の取組みを持ち寄って、子どもたちの育ちと学びを小から中、高へとつなぎましょう。

#### ● 「夢のスケッチブック」づくり

学校は、子どもたち一人一人がキャリア教育において、どのようなことを学び、どのようなことを経験したかなどを記録に残して綴じ込み、「夢のスケッチブック」として記録を重ねていきましょう。

そして、この「夢のスケッチブック」を小から中、高へとバトンタッチしていきましょう。



高校生が小学校でインターンシップの体験を語りました。  
(竹原高等学校)

### 学校・教員が果たすべき役割

キャリア教育を充実させるためには、幼児期からの発達段階に応じた取組みが必要です。保育所・幼稚園、小学校・中学校・高等学校等が組織的・系統的に、幼児児童生徒一人一人のキャリア発達を促進させる取組みを推進することが必要です。

### 改善の考え方

保育所・幼稚園、小学校・中学校・高等学校等は、情報を共有するなどして、相互に十分な連携を図り、子どもたち一人一人の発達課題に対する指導・援助を組織的・系統的に行うことが大切です。





学校と家庭との  
「つながり」を深める



小学生と「おやくろの会(寺西塾)」とで、学校のそばのたんぼを借りて稲を育て、秋にみんなで収穫をしました。  
(東広島市立寺西小学校)

### 家庭が果たすべき役割

以前は、子どもたちは、家庭での体験を通して、社会人・職業人となるための準備を行っていました。

現在においても、家庭での教育が子どもの人生のすべての出発点であることを確認し、働くことの意義を子どもに伝えていく必要があります。

### 改善の考え方

家庭は、本来の教育力を発揮するために、学校との「つながり」の中で、子どもたちの社会人・職業人としての自立を促していくことが大切です。

### 具体的な取組み例

#### ●保護者との研修の場の設定

学校は、PTA総会などの中で、キャリア教育に関する研修の場を設けて、キャリア教育についての取組みを家庭と共有しましょう。

また、学校での子どもの様子や家庭での子どもの様子についても互いに伝え合い、子どもの育ちを支援しましょう。

#### ●子どもたちと語る機会の拡大

家庭では、職場体験やインターンシップなどについて話題にしながら、働くことの意義や将来の目標について、子どもと語る機会を増やしましょう。

#### ●家庭での役割が人に役立つ喜びへ

学校と家庭が協力して、子どもたちに家の手伝いなどの役割をもたせて達成感や成就感を味わわせましょう。

そして、家庭での役割に責任をもつことを通して、社会での役割意識を育てましょう。



学校と地域との  
「つながり」を深める



地域の食文化を学習し、「ひばごん丼」をつくっている地域の人から、仕事に対する思いや考え、夢や生き方などを学びました。  
(庄原市立西城小学校)

### 地域が果たすべき役割

将来、子どもたちが、社会人・職業人として自立していくためには、多くの大人との出会いが必要です。地域は、子どもを包み込む「つながり」を深めて、教育力を高めることが求められます。

### 改善の考え方

地域は、子どもたちが地域の大人と接する機会を設け、子どもを積極的に受け入れ支えていくことが必要です。地域を子どもたちの学習の場として、学習の題材を提供していくことが大切です。

### 具体的な取組み例

#### ●地域の大人との触れ合いを

学校は、地域の大人を招く機会をつくり、触れ合いの中から子どもたちにあこがれの大人のイメージをもたせて、「なりたい自分」の姿を具体的にさせましょう。

#### ●語って伝える大人の体験

子ども会や自治会の行事など、子どもたちが地域の大人と触れ合う場を設けましょう。  
地域の大人は、仕事を通じて楽しかったこと・苦労したことなどの体験を子どもたちに語りましょう。

#### ●地域の子どもを地域で育てる

地域の中での知り合いを増やし、学校と子どもと大人とのネットワークを広げるために、学校と地域が協力して、それぞれの行事やボランティア活動などに互いに積極的に参加しましょう。



### 具体的な取組み例

#### ● 「輝く大人」の秘密をさぐる

学校は、子どもたちが「輝く大人」に出会ったり、産業界について学んだりする機会を積極的に設けましょう。

#### ● 職場で伝える職業人の基本

産業界は、職場体験やインターンシップなどにおいて、子どもたちに、時間を守ること・挨拶すること・整理整頓することが、働くことの基本であることを実感させましょう。

#### ● 「夢のタッチブック」の実現に向けて

学校と産業界は、職場体験を通して、子どもたちが「なりたい自分」に近づくための具体的な道すじを考えさせましょう。

そして、今できることを計画し、実行することによる充実感を味わわせましょう。



製品に電圧チェックをして、責任を持ってひとつひとつの仕事にあたることの大切さを学びました。（広島工業高等学校）

### 産業界が果たすべき役割

産業界は、子どもたちを大人に育てていくことができる教育力を持っています。産業界は、子どもたちにとって、社会を味わうことのできる一つの教室であり、先生であり、教科書であることが求められます。

### 改善の考え方

産業界は、本物に触れさせる体験を通して、子どもたちの知的好奇心を醸成し、学習意欲を高め、将来就きたい仕事へのあこがれを強くさせていくことが大切です。



もの

# 輝く大人をめざして

高等学校

急斜面での作業で大変だった。私たちの力で失われた緑の山が復活したらすばらしいだろうなあ。10年後20年後、今日植えた苗木が大きく成長した姿を見に来たい！



○ 生徒が社会を知る大変良い機会だと思います。我々企業にとっても社会貢献活動として引き受けるべきだと考えています。

機械の操作に一生懸命で、笑顔で対応することの大変さに気付きました。

中学校

地域の山の緑を復活させるために、地元の森林組合の方の指導で、参加した多数の市民と一緒に植林しました。



地元の道の駅で特産品の販売を体験しました。

【保護者】

○ 当たり前のことですが、職場体験を通じてあいさつの大切さ、笑顔の大切さ、自分の思うようにならない社会の難しさ、お客さんや職場の人とコミュニケーションをとることの難しさを学んだようです。子どもにとってプラスになったと思います。

【植林の指導をした森林組合の方】

○ 地元の自然環境を考え自然保護や地域活動に関心をもってくれることに、意義と頼もしさを感じました。

【教職員】

○ 事業所や関係機関等との連携を通して、地域の教育力の重要性を再認識できました。  
○ 体験活動を実施する中で、事前・事後指導の在り方など、学校の教育活動の見直しを図ることができました。  
○ 体験活動の中で、学校では見られない生徒の姿を見ることができ、新たな一面を発見することができました。



小原友行委員長  
広島大学大学院  
教育学研究科 教授

## 広島型のキャリア教育を求めて

キャリア教育支援会議  
委員長 小原友行

最近よく耳にするキャリア教育とは何でしょうか。

広島県教育委員会によって作成されたパンフレット「キャリア教育の推進」によれば、「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体」と定義されています。このような定義からも読み取れますように、広島県におけるキャリア教育の大きな特色は、中学校、高等学校の「出口」での進路指導や職業教育ではなく、学校・家庭・地域・産業界の連携のもとで、「入り口」である幼児期から、発達段階に応じて子どもたち一人一人に夢をはぐくみ、なりたい自分を探しながら、自己の在り方生き方を考えていく、自己実現型の取組みをめざしていることです。このような広島型のキャリア教育は、「生涯輝く大人づくりをめざした教育」と言い換えることもできるのではないのでしょうか。

では、なぜ今、このようなキャリア教育が求められているのでしょうか。

その最大の理由は、「大人になりたくない」「大人になりきれない」子どもたちが増大してきていることです。子どもたちが大人になり、次の世代の親になるのは、今から10年後、そして20年後です。その頃の社会を考えると、子どもたちの経験や体験の不足とともに、コミュニケーション力や人間関係形成力、将来設計力や意思決定力といった、社会に参加しそれを形成していくための「生きる力」が十分育っていないことは、大変心配されるどころです。

しかし、それは子どもたちの責任ではなく、学校・家庭・地域の変化の中で、大人が子どもたちにそのような力をはぐくむ場を用意してこなかったということではないのでしょうか。いわゆる、家庭・地域の教育力の低下です。私たち大人は、幼児期からの発達過程において、育て残しをしてきたのではないのでしょうか。昔も今も、子どもたちの本質は変わらないはずですが。今求められているのは、家庭や地域での子どもたちの生活の中に、学校での学習の中に、そのような「出会い、発見、感動」のある自己実現の場を取り戻すことです。子どもたちが「生きる意味」を考え、発見する時と場が必要ではないのでしょうか。

では、これからのキャリア教育をどのように進めていくことが必要となるのでしょうか。

私たちキャリア教育支援会議のメンバーは、「つながり」をキーワードに時間をかけて検討を行いました。その結果を、学校間、学校と家庭、学校と地域、学校と産業界が連携することによって生まれる教育力を活用することによって、子どもたちが生涯のテーマ（目標、夢、希望、そして志）を見つけるようになることを支援するための具体的な提言として、このパンフレットに書かせてもらいました。広島型のキャリア教育によって、未来を担う子どもたちが自分自身のキャンパスにどのような夢や志を描いてくれるのか、大いに期待したいと思います。